はじめに退職後の計画は出来てました。それを早めただけです。

　まずは学ぶこと。
定年退職後詩吟を学び20年後に師範を取り遠出は出来なくても家でつながりを保ちご主人亡き後も一人暮らしを楽しんでいる先輩も健在です。
　私も老後はそのようにと思ってましたがなにせ長いのです。
さてさて今をどの様に生きようかの課題がありました。
そこで一つはここオーストラリアは移民の国です。
ボランティーアが盛んです。
夫は英語を使い稼いでます。子供は現地の学校に行き友人もでき楽しく生活ができてます。妻は英語もできず友達もなく家で引きこもりになっている主婦ができてしまう。
その対策を市が考えて技術を無料で楽しく学ばせてくれる人を常に募集してます。
それに私は参加しました。
もう一つ国別のコミニティーが在り日本人は永住者用とビジネスマンの滞在用です。
どちらも私のように風来坊が参加できる会ではありません。日本人社会は敷居が高いのです。
私が来豪した当時で今は変わってきています。
　その永住者のＪＳＣと言うコミニティー雑誌に毎月挿絵をボランティーアで載せてました。一度も私は参加したことはありません。
　いつの日か、これを墨絵のイラストとして本を出版したいと夢を抱いてました。

電子書籍で作成できることを知りこれは一冊目です。

街中の大きな樹木たちよ！

オオ！オーストラリア。
日本では樹齢100年とか云われる木は神殿仏殿等人里離れた所にひっそり生息している。
それなのにこの騒音の街中で見事に生きている。

私は描きたいこの街、この樹木公園で

大きな樹がある街アーターモン

　ホテル住まいが終わってこのシドニーのどこかに住むことにして最初降りた街にドカーンと並ぶ並木自然体手入れなしでも木々は元気で私を向かえてくれた。
　中国画は画面に必ず文字が入る。
字無しの私の絵にＲｅｎ先生が書いてくれた唯一つの絵です。文字が入ると絵の引き立つ。

芝生の中の草花

　きれいに刈った芝生には雑草が潜んでいるなど夢にも思わないものです。
昔男性が床屋に行き角刈りにした感じですね。今はヘヤーサロンで男も女も一緒のスタイルですね。刈ったばかりの芝生を想像できる髪型などトンと見かけません。

　さてさて芝生は刈るだけでは芝以外の草花の種が小鳥や風で運ばれて芽を出し成長します。
芝を刈る前に他の植物を抜き取ることが第一です。他の草も緑はグリーン同じと考え抜いても抜いても生える草にお手上げの庭も出てきます。雑草抜きを他人に頼む家庭もあります。

　私は異種類が中にあるのも好きです。
そして可憐な花を咲かすのはヨチヨチ歩きの赤ちゃんがおいたをして得意顔をしている姿そのものです。

芝生の中の雑草

　　かわいい花を咲かす草は好きだけど背丈が３０センチ以上になりイネ科の尖った葉の草もよく見かけます。
これは抜き取るべきと思いながらもよく見ると可愛いのです。
　さていつ花を咲かせているのか終ぞ見たこと無い私です。元気に手入れしない芝生で生活を楽しむ草です。そっと芝生の為に抜きたいのですが私にはできない。

二人静か

　日本でも庭でよく見かける花です。
私の友人は狭い庭に抜いても抜いても生えてる二人静かではなく二人ガヤガヤだと云います。
　私は樹木の下ちょっと湿ったところを好み静かに生息しているような気がします。
ここシドニーは手入れの届かない芝生の周りでよく見かけます。種類が違うのでしょうか。

よく見かける垣根の草木

日本でも見かける木ですね。成長が早く垣根狩りを怠ると大変なことになります。
日本である職場の垣根がこの木でした。
トップが大変な人でした。その人は木々は坊主が好きなようで少しでも伸びるとカットを怠ってると手本を示してやるから見とれと切りまくりました。見事に坊主になり全部枯れてしまいましたがこの垣根だけは元気に以前よりまして繁ってました。中間職のある人は二度とこの職場には来る事は無いでしょう。想いだしたくも無いです。と言ってましたが私の方が先に転勤してしまいました。そして私は退職し住処を海外にしています。
　今私はこのシドニーでこの木の垣根と対話してます。そしてあの職場あの人達の事を想いだしてます。あれから２０年以上経ちました。全員退職し今はどんな所に住んでいるのでしょうか垣根の在る家それともフラット或いは天国でしょうか。

白木蓮は春を告げる

日本でも春を告げる花は梅の花やぼけの花そして木蓮ですね。春爛漫は桜となります。
ここシドニーは全部一緒に開花します。ソメイヨシノは南半球では育たないのでソメイヨシノもどき花だそうです。
木蓮は庭木としてここでもよく見かける花です。葉の無い時に咲くからよく目立ちます。私の住まわせてまらった家も大きな木蓮の木が有りました。一枝失敬して描かせてもらいました。部屋に一輪の花ありて友人の母を想う。遠い国に嫁ぎ母の好きだった木蓮を植える。私の住んだ家の大きな木蓮も友人の植えた木蓮の苗木も元気にしているかなぁ。

サボテンの花

　日本では観賞用の鉢植えサボテンには花のあるのも多々見かけます。
しかし庭に咲くサボテンの花は温かい地方のみですね。
私が勤務した地方では神奈川県二宮市だけで見ました。ある日大雪が降って交通ストップになり
今日は休みと電話をかけた時も平塚も小田原も雪でも二宮だけわ降ってないほど暖かいのです。
相模湾の一番湾曲した所なのです。
夏に急用ができて朝今日休ませて下さい。と電話したら雪降っているのと云われてしまいました
。

　黄色でけでなくオレンジ色もあり庭木として手入れもしなくても良くサボテンの木はよく見か
けます。
何年たったらこのように見事の花が咲くのでしょうか。私も欲しい自分の庭と家。

秋は落ち葉の季節

　３月から５月が南半球シドニーの秋ニセアカシヤの落ち葉に悩ませられる季節です。
レストランに入っても落ち葉です。おいおい落ち葉ぐらい掃けよなと最初来た手の頃は想ってました。
しかし掃いても掃いても散る葉。じゅうたんの上を歩く感じに今はなってます。

　落ち葉と共に実も落ちてます。栗のみを拾うような気持ちで歩きながら美しい色形に見入ってます。
そのまま動かさないで絵になるポーズをとっていて思わず足止めをくいます。

　小学生の頃寄り道しないで真直ぐ帰りなさい。と先生に言われても行きと帰りのかかる時間が違うのに、いつも不思議でした。うん十年経ってやっと解明したこの頃です。

あとがき

　この本を作るに当たり一つ夢に向かって進んだ気がします。
いつか何時かは自分の作品を本にしたいと夢を持ってました。

大きな作品は元私の会社の本社に預かってもらってました。
あの津波の後の増水で茨城県鹿島郡に在った本社は水を被り作品は全滅してしまいました。

　シドニーで描いていた小さな作品だけが私の手元に残ってます。
これを本にしました。まだまだこれから続けてよい作品にします。

いつまでも夢をもって進む。

著者：shena

私の心に沁みるシドニーで普段見る草木

http://p.booklog.jp/book/49057

著者 : shenashiina
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/shenashiina/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/49057

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/49057

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.